

児童発達支援センター きらり  
令和3年度 事業所評価結果および改善目標について

令和4年3月30日  
児童発達支援センター きらり  
センター長 野村 祐治

今年度も保護者の皆様のご理解・ご協力に感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染状況により、行事の開催、日中活動の制限などを行いながらも、できる限り子供たちが多くの経験ができるように取り組んできました。アンケートの実施にあたり、保護者様からのたくさんのご意見、励ましのお言葉を頂きありがとうございます。

本年度、保護者の皆様および職員による、事業所評価の結果および改善目標について報告いたします。

◎評価結果について

《保護者より》

- ・建物について、活動によっては教室が狭い。建物が古い。
- ・保育園やこども園、学童など、障害のない子どもと接する機会がない。
- ・保護者会等について、他の保護者と話す機会が少なかった。
- ・緊急時の対応、避難訓練などについて、保護者に周知できていない。

《職員より》

- ・施設整備に関して、十分ではない。(トイレ、活動スペースなど)
- ・他機関との連携について、全ての併用先と情報共有をしたい。
- ・児童にあったアセスメントツールの活用ができていない。
- ・ヒヤリハットの活用ができていない。

◎改善目標について

《建物、施設整備について》

トイレの数が少ない、活動スペースが狭い等の課題がありますが、現在建て替えの計画を立てているところです。

子どもたちが安全に過ごせるように、活動内容を工夫し、必要に応じて修理等は行っています。

3年度は遊具の一部改修工事、バス用カーポートの設置を行いました。

4年度は人口芝の張替えを計画しています。

《障がいのない児童との交流について》

現在、実施できていない為、今後交流の機会を検討していこうと考えています。

《保護者交流の機会について》

保護者のご要望に応じて、2回実施する予定でしたが、コロナの感染状況を踏まえ1回の実施となりました。

4年度も5月、1月に交流会を実施する予定です。

《緊急時の対応などの周知について》

年度初めに保護者の皆様に書類にてお知らせします。

また、新規利用者様には契約時などにお知らせします。

《他機関との連携について》

今年度は保育所、学校等多くの関係機関と情報共有をさせていただきました。

しかし、一部できなかつた施設もあるため、来年度も引き続き連携に努めていきます。

また、保育所等訪問支援も活用しながら情報共有、助言などの機会を設けていきたいと考えています。

さらに、田川地区障がい者自立支援協議会と密接に連携をとり、地域のインクルージョン推進の中核として機能できるように更に連携を深めて参ります。

《アセスメントツールについて》

発達の経過を客観的に把握し、支援に繋げるため、児童にあったアセスメントツールの活用を考えていきます。

《ヒヤリハットの活用について》

ヒヤリハットの共有はその都度実施していますが、今後どのように活用していくかを検討し、再発防止、けが・事故の軽減に努めます。